

授業者も！参加者も！学ぶ!!高まる!!広げる!! 西部の算数・数学の未来へのバトンをつなぐ

平成30年5月10日(木)

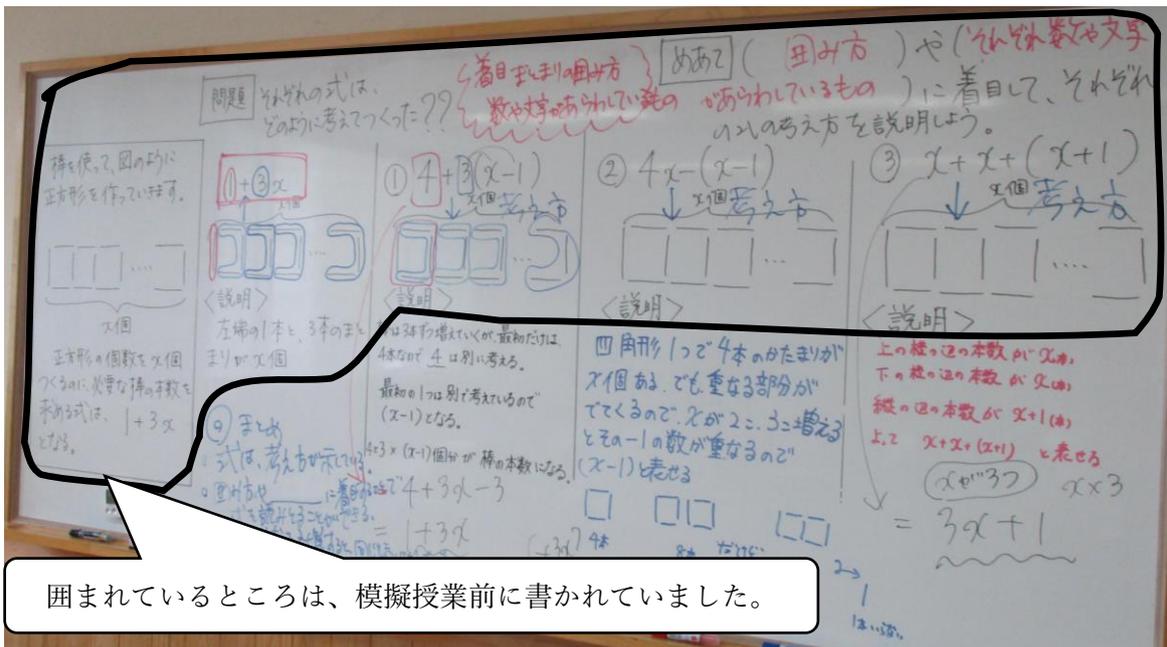
西部教育事務所

4月23日(月)の午前、清水中学校の第1回授業づくり講座・教材研究会が行われました。清水中学校数学科以外の先生方や小学校をはじめとする他校の先生方にも参加いただき、教科・校種をこえて協議ができ、充実した『学びの場』でした。

今回の授業は、第2章の全20時間の7時間目に位置付けた授業であったため、この時間までの既習事項の確認を別のホワイトボードを使って説明をした上で模擬授業に入りました。また、模擬授業のメインとなる場面以外のところの板書が書かれたところからスタートしたことで、短時間で焦点化した教材研究会となりました。



既習事項確認のホワイトボード

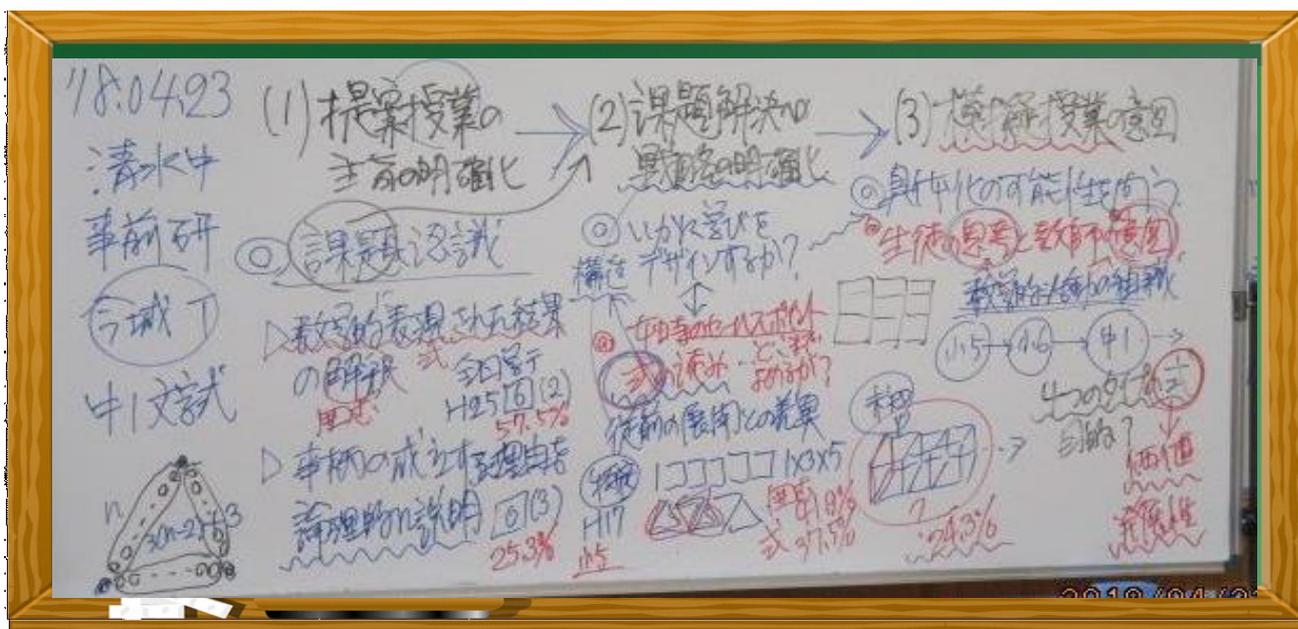


囲まれているところは、模擬授業前に書かれていました。

【授業者の声】4月の教材研究会での模擬授業に向けて、教科会でも事前に模擬授業を行いました。教科会での模擬授業では、生徒に思考させるための流れや発問を検討し、どのような発問がよいのか教科教員で考えました。当日の模擬授業では、その悩んだ点を中心に模擬授業を行い、生徒役の先生方がどのような反応をするのかを確認し、今後の授業改善につなげることができた時間となりました。

齊藤先生からの助言では、課題認識から課題解決への戦略を明確化すること、また一時間の学び(考え方)が、未知のものに出会ったときにも解決できる力となることや、学びを統合させていくことの大切さを学びました。

【学力向上総括専門官による指導板書】



今回の学び

今城 雄次 教諭：1年「文字と式」文字式の読み取り

授業後に齊藤先生から、まず「義務教育9年間で算数・数学をどう作り上げていくか」が大事であること、そして事前研のあり方を示していただきながら授業作りについて助言していただきました。

- (1) 時期で授業の内容を選ぶのではなく、生徒の課題を克服するための提案授業とすること。
- (2) 図形の形が変わっても、式の構造を読むことで問題が解決できる授業の流れを作ること。
- (3) 生徒が学習したことを生かして発展的に思考し続ける態度を育てるためにどのようなしかけがよいかを検討する場となるよう模擬授業に意図を持たすこと。

【参加者の声】

- ・「生徒の思考と教師の意図が釣り合うことが大切」とおっしゃっていた言葉が強く心に響きました。1時間の学びが、他で生きる汎用的な知識となるために、どんな適用問題やモデルを提示することが生徒に学ぶ楽しさを感じさせていくか、という授業を創る醍醐味を考えることのできた時間でした。
- ・小学校での学習を中学校での学習へつなぐを持たせた授業づくりをしていくことの大切さを学びました。英語科でも小学校の外国語の教科化を意識した活動を行っていきたい。また研究授業では、現状と課題を把握し、「なぜ、この授業をみてもらい、討議していくのか」までを考えていかなければならないと強く感じました。

【授業づくり講座（西部管内）のこれからの日程】

5月23日(水)午後：具同小学校授業研究会、5月24日(木)午後：入野小学校教材研究会
5月25日(金)午後：片島中学校授業研究会、5月30日(水)午後：清水小学校教材研究会
6月18日(月)午後：入野小学校授業研究会、6月20日(水)午後：清水中学校授業研究会

※ 詳しい日程は、西部教育事務所のHPで確認をお願いします。